

平成30年度 防衛大学校卒業式
防衛大臣訓示

本日ここに、安倍内閣総理大臣ご臨席のもと、防衛大学校の卒業式が挙行されるにあたり、防衛大臣として一言申し上げます。

晴れて卒業の日を迎えた卒業生諸君、卒業おめでとう！

そして、今日のこの日を心待ちにされていたご家族の皆様方に心からお祝いを申し上げます。

諸君は、伝統あるこの小原台の地に集い、それぞれ学問の研鑽と、心身の錬磨に励み、「広い視野、科学的な思考力、豊かな人間性」を育むとともに、友情と信頼の絆を築いてこられました。

ここに晴れて卒業の日を迎えられ、感慨無量のここと思います。卒業生諸君は、本日から自衛官として第一歩を踏み出し、我が国の平和と安全を守り抜くという崇高な任務に就くわけですが、本校で養ったリーダーとしての土台を基礎とし、国民に信頼される精強な自衛隊を作るため、不断の精進を重ね、新しい時代を担うに相応しい堂々たる幹部自衛官として大きく成長されることを切望いたします。

日本を取り巻く安全保障環境は、一層厳しさを増しています。この厳しい安全保障環境の下において、国民の命と平和な暮らしを守り抜くために、まず、何よりも我が国自らの努力により防衛力を強化する必要があります。

昨年末、政府は、今後の我が国の防衛の在るべき姿を示す指針である「防衛計画の大綱」と、それを具現化するための「中期防衛力整備計画」を決定いたしました。

現在の安全保障環境においては、宇宙・サイバー・電磁波といった新たな領域での優位性確保が死活的に重要となっております。新たな「防衛計画の大綱」では、専守防衛を前提としながら、従来の延長線上ではない、真に実効的な防衛力を整備することといたしました。

具体的には、これまで構築してきた統合機動防衛力をさらに深化させ、新領域を含む全ての領域の能力を融合させた、「多次元統合防衛力」を構築することになります。

この取り組みは、決して容易なものではありません。新たな挑戦です。諸君には、私とともに、安倍内閣総理大臣のもと、国民の期待と信頼に応えうる防衛力を作り上げるために、これからも全力を尽くしてもらいたいと思います。

30年前、防衛大学校に女子学生はいませんでした。初めての女子学生が入校したのは、平成4年のことでもあります。その中の一人、東良子一等海佐は女性初の護衛隊司令となり、先月、海賊対処の水上部隊指揮官としてソマリア沖・アデン湾の任務を完遂いたしました。女子学生一期生に続く、女性自衛官の活躍にもめざましいものがあります。現場で多くの隊員を率いる連隊長や身体的に負荷もかかる戦闘機パイロットも誕生しています。そして、昨年、女性自衛官の配置制限は法的な制約のあるものを除き、全て解除されました。

このような変化は、諸君の先輩方が強い使命感のもと、各々の現場で、試行錯誤と創意工夫を積み重ねることで初めて成し遂げられたものであります。

これから、先輩方の仲間入りをする諸君にも、常に変革の先駆けたらんとする気概を持ち、職務に精励されることを願っています。

各国からの留学生の皆さん、言葉や習慣の違いを克服して、本日、無事に卒業の日を迎えられたことに心より敬意を表します。留学生の皆さんが、我が国での経験を糧として、母国において大成され、貴国と我が国との友好協力関係を、より一層推進するための架け橋となってくださることを強く希望しております。

最後に、卒業生諸君に、次の言葉を贈りたいと思います。

「人を相手にせず、天を相手にせよ。天を相手にして己を尽くし、人を咎めず、我が誠の足らざるを尋ぬべし。」明治維新の英傑、西郷隆盛（西郷南洲翁）の言葉です。「物事がうまくいかないときは、人のせいではない、我が誠が足りないからである。人の責任にせず、天の道理に照らして、自らが正しくあるかどうか、真に情熱を注いだか、誠心誠意を尽くしたかを反省して、一層努力しなさい。」という教えであります。

諸君はこれからリーダーになっていく人達です。リーダーは自ら責任を担っていかなければなりません。「勇将のもとに弱卒なし。」常に己を磨き、人格を錬磨し、立派なリーダーになっていってください。

心から、諸君の前途に期待いたします。

結びに、日頃から防衛省、自衛隊、防衛大学校に多大なるご理解、ご協力を賜っております国会議員の皆様、地元自治体、関係各国からのご来賓の皆様に対し、厚く御礼を申し上げますとともに、これまで学生達に対し多大なる情熱と愛情を持って教育に取り組んでこられた國分学校長をはじめとする教職員各位に心からの敬意を表し、私の訓示といたします。

平成31年3月17日
防衛大臣 岩屋 毅